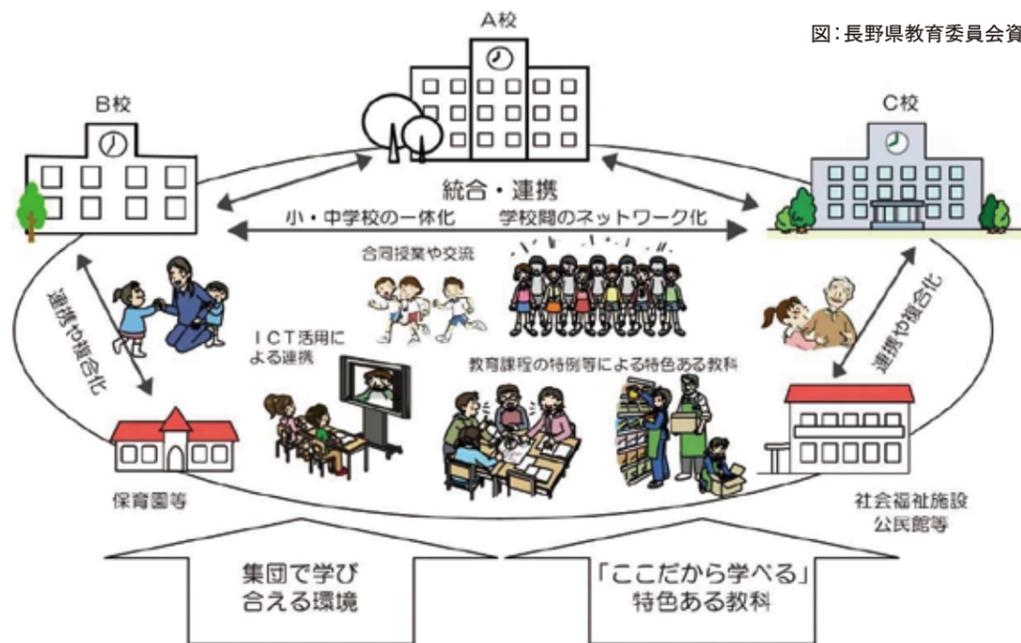


図：長野県教育委員会資料（H26）



児童生徒を真ん中に据えた活力ある学校づくりのために、学校、家庭、地域、教育委員会が知恵と力を出し合って将来を見据えた検討をしていくが必要になってきています。図は長野県教育委員会が平成26年度に作成した、地域ごとに描く活力ある学校づくりのヒントを盛り込んだイメージです。

少子・人口減少社会に対応できる方策は一つではありません。子どもたちが通う学校の現状を理解し、地域の実情に応じた「魅力ある学校」を一緒に考えましょう。

下のQRコードから資料や動画が見られます！

学校運営協議会での資料はこちら



- ・飯田らしい教育活動の紹介
- ・児童生徒数、学級数の推移
- ・中学校の部活動の状況
- ・校舎の維持更新コストの推計
- ・各学校の個票

などがご覧になれます



「ぼお」©フェスタ

教育長がこの取組を紹介した動画はこちら(再生時間約6分)



■ご意見、お問い合わせ先  
 飯田市教育委員会事務局学校教育課  
 (課長) 桑原隆 (担当) 竹村公彦  
 ☎ 0265-22-4511 [内線] 3717  
 📠 0265-23-8996

令和4年3月

市内小中学校 保護者 様

飯田市教育委員会

「児童生徒「ひとりひとり」の学びを支える地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて」を配布します。

私たちの住む飯田市でも児童生徒数の減少と校舎の老朽化が進んでいます。このような状況のなか、地域に根ざした飯田らしい教育環境とはどのようなものか、今年度より飯田市教育委員会では学校運営協議会<sup>(※)</sup>での話し合いをスタートしました。この中で話し合ってきた内容は保護者の皆さんにも知っていただきたい大切な内容です。

そこで今年度の学校運営協議会で意見交換してきたテーマや児童生徒数の推移、学校施設の状況をお知らせします。未来を担う子どもたちが幸せになるために、地域に根ざした飯田らしい教育環境をみんなで考えていきましょう。

(※)学校運営協議会：学校、地域、保護者が同じテーブルに座り、学校と「協働」して子どもを育てていく仕組み

# 児童生徒「ひとりひとり」の学びを支える 地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて

配布資料

飯田市教育委員会

## よりよい教育環境の創造のために議論を始めました

「飯田市が抱える課題」×「これからの義務教育」

いま社会では情報化やグローバル化だけでなく、これまで経験したことのない人口減少・少子高齢化が進行しています。このような中で、子どもたちが笑顔で通えるこれからの学校づくりは、従来のような教育環境整備だけでは難しくなり、県内はもとより下伊那でも様々な動きがあります。

[例：根羽村立義務教育学校根羽学園の開校(2020)、天龍村は施設一体型小中併設校の整備(2024)など]

飯田市でもこれは遠い将来の課題ではなく、今考えなければならない、そして先延ばしにできない課題であると考えています。そこで、地域や保護者の皆さんと一緒に「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」をテーマにした検討を進めるために、市内すべての学校運営協議会で協議をスタートさせました。

[子どもたちの未来]×[みんなで考える]

## テーマ「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」

### <子どもたちの未来>

飯田市の教育ビジョン「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」を理念に、これからの時代を生きる子どもたちの資質・能力を育みます。

人間力と学びに向かう力の根っこを太らせる教育を充実させ、自律した学びを実現できる教育環境づくりに向けて、学校運営協議会での協議を行っています。



本年度は上記のテーマについて意見交換

### <プロセス>

本年度は上記テーマについて、各学校の学校運営協議会で2回の協議を行いました。学校、中学校区の話し合いには教育委員会から右頁のような現状と見通しについて説明しました。

[小・中 28校 (小中合同含む)]

#### ■学校運営協議会①(5月～7月)

- 市全体と学校を取り巻く現状の共通理解・数字や事実からみる現状理解と把握

#### ■学校運営協議会②(9月～12月)

- 特色・魅力ある学校づくりのために、どんなことが考えられるか
- 現状把握から「校区の課題」は何か  
・学習環境・通学区・施設・地域の未来 等

### 学校運営協議会の意見を整理し、今後の進め方を提案

「学校を取り巻く環境」×「対話・協働」

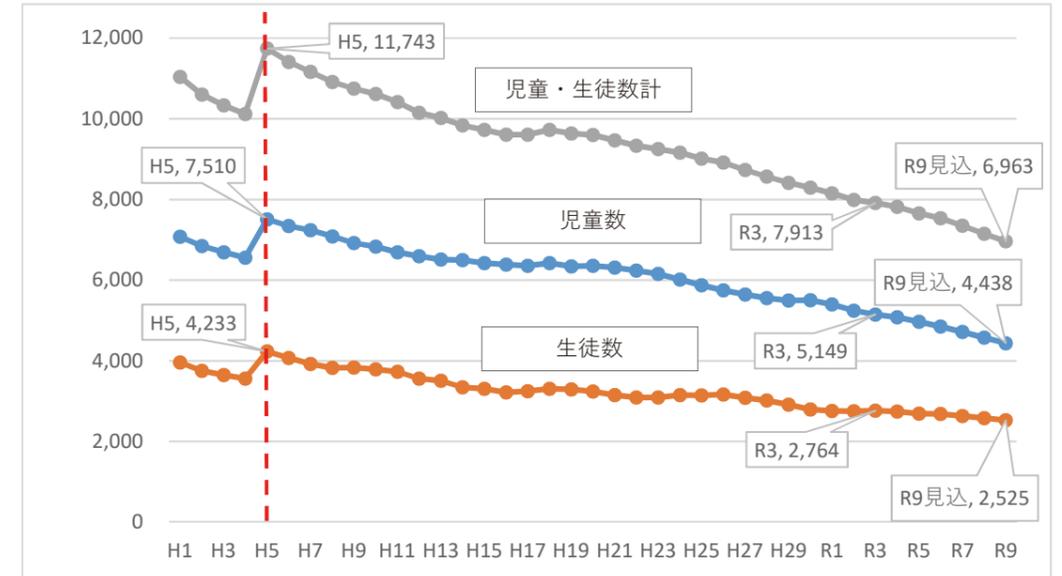
飯田市教育委員会では、今後それぞれの学校運営協議会で出された意見や、将来の学校像を考慮して、令和4年度以降の検討におけるテーマや課題、検討方法などについて整理し提案します。

—「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会(16名で組織)」で協議します—

【豆情報】飯田・下伊那の小学校設立は全国に先駆けて進み、明治8年の小学校数は85校で、その内飯田市に所在する小学校は37校だったと記録されています。わたしたちの飯田市では、地域と一緒に先進的な教育を行いこれからの人材を育てようとする精神が根付いていて、戦後(昭和21年)の記録には「文化程度と教育熱意高く、施設よし」と記録が残っています。このように地域の方々と一緒に創り上げてきた飯田の教育風土には、先進性と独自性が脈々と流れています。

## 【小中学校を取り巻く現状】

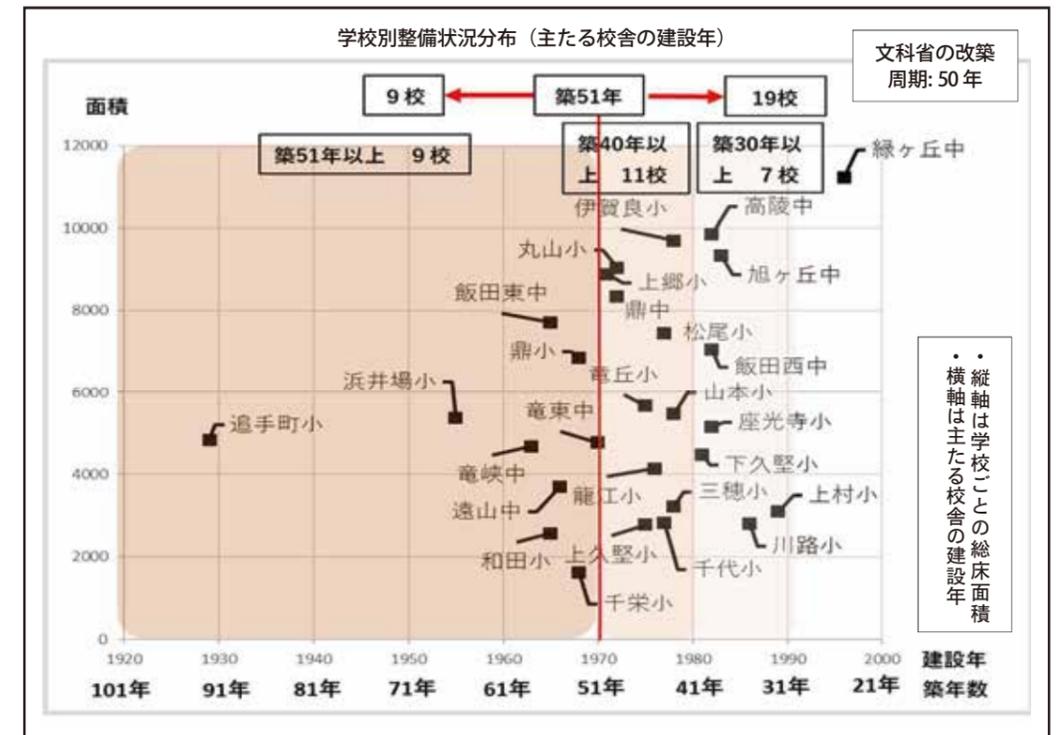
1 児童生徒数が減少し続けています



グラフは市内の児童生徒数の推移を表しています。人口減少・少子化に伴い、小・中学校の児童生徒数も減少し続けています。令和9年の見込みでは、旧上郷町と合併した平成5年の約6割の児童生徒数になってしまいます。

児童生徒数減は学校の小規模化につながり、教職員数も減少します。学校が一定の学級数を下回ると、小学校では専科教員が配置されないことや、中学校ではすべての教科の専任教員をそろえることができなくなります。

2 校舎の老朽化が進んでいます



市内には小学校19校、中学校9校の計28校があります。上図は校舎の建設年を表していますが、築年数51年以上の小中学校が約1/3にあたる9校あることがわかります。

校舎を長寿命化改修しない場合の財政負担は、今後40年間に毎年約15.5億円(現在は2.5億円)かかると試算しています。これは過去5年平均の教育費決算45.5億円の3割を超える金額にあたり、教育関連の取組みの実施に大きな影響を及ぼしてしまいます。